

平成30年度

「運営に関する計画」

(中間評価)

大阪市立西中学校

平成30年10月

平成 30 年度 学校教育目標

豊かな心を持ち、自ら学び、たくましく生き抜く生徒を育成する。

- (1) 管理職
- (2) 教務部
- (3) 生活指導部
- (4) 健康教育部
- (5) 事務・管理作業員部
- (6) 1 学年
- (7) 2 学年
- (8) 3 学年
- (9) 国語科
- (10) 社会科
- (11) 数学科
- (12) 理科
- (13) 英語科
- (14) 音楽科
- (15) 美術科
- (16) 保健体育科
- (17) 技術・家庭科
- (18) 特別支援教育委員会
- (19) 人権・道徳委員会
- (20) 食育委員会

（１）管理職

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面でみると、「全国学力・学習状況調査」において、国語 A・B、数学 A・B とも、全国平均を下回ってはいるが、平成 24 年度調査にくらべて、年度毎の教科による違いはあるものの、平成 28 年度には、差が約 1～7P の幅に縮まってきており、これまでの学力向上に向けた各取り組みの成果が徐々に表れてきている。ただし、残念ながら平成 29 年度については、数学 A・B の差が 11～13P 近くまで差が開き、もう一度根底から授業規律や授業の構成、及び、教科教員の授業力を見直さなければならない状況である。

数学科や英語科を中心とした習熟度別少人数授業の実施や、「学校元気アップ地域本部」とのタイアップによる補充学習、資格講座(英検)など、学力向上の取り組みを、今後もさらに充実させていく必要がある。また、平成 29 年度より学力向上推進モデル事業との連携を図り、国語科や数学科を中心とする基礎学力の構築に学校の総力をあげて取り組んでいく必要がある。

授業の内容の理解については、国語・数学ともに概ね 7～8 割の生徒が肯定的な回答をしてはいるが、教科の授業を担当している 19 名の教員のうち、経験 10 年未満の教員が 4 割近くの 7 名おり、さらに授業力や指導力の向上を図っていく必要がある。

家庭での学習については、平日 1 時間未満の生徒が 37.2%を占めているとともに、自分で計画を立てて勉強することについては、半数を超える 58.5%生徒が否定的な回答をしており、自主的な学習の習慣化・定着を図ることが大きな課題である。

また、読書に関しては、「普段まったく読書をしない」という生徒が 6 割弱いる。「読書が好きではない」と回答した生徒が多く割合を占めており、読書意欲の醸成、読書習慣の形成については継続して取り組むべき大きな課題である。

学校全体としては、落ち着いた状況で安定した教育活動が実践されており、「いじめを許さない」といった心情については、全国平均を上回っており確実に醸成されている。しかしながら、自尊感情の形成については、普段の学校生活の様子と齟齬のある結果となっており、大半の生徒が「学校で友達に会うのが楽しい」と肯定的な回答をしていること等を基盤として、あらゆる教育活動を通して、「できる喜び」や「達成感」を味わわせる必要がある。さらに、学校・家庭・地域の連携を強化し、体験的な活動を通じて豊かな感性や情操をはぐくみ、人間としてのあり方や生き方を考えることができるよう取り組みを進めていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。

（施策 2 道徳心・社会性の育成）

- ④ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- ⑤ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ② 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ④ 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。

（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

2. 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ③ 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ④ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

学校の年度目標

- ① 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ③ 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。

（施策2 道徳心・社会性の育成）

- ④ 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- ⑤ 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ② 今年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ③ 今年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ④ 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ⑤ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である上体起こしの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

学校の年度目標

- ① 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を全国平均にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ② 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成前年度より 2 ポイント減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ③ 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ④ 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、前年度より 3 ポイント向上させる。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

- ⑤ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を、平成 30 年度調査において前年度より減少させる。

(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

（２）教務部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

「全国学力・学習状況調査」の結果において、年度毎の教科による違いはあるものの、全国平均との差は縮まってきており、これまでの学力向上に向けた各取り組みの成果は徐々に表れてきている。しかし、記述式の問題の正答率が低く、苦手意識があると考えられる。また、無回答の割合も高い。学校全体として、国語の授業や学級活動などを中心に、感想文など身近な課題から、文章を書く機会を増やし、練習を続けていく必要がある。

学校元気アップ地域本部事業による学生ボランティア等の補充学習会及び、ビデオ教材による学習会を実施するなど、放課後の自主学習の支援は充実してきている。また、今年度も『学力向上プロジェクト』の取り組みとして、小テストを反復することにより、基礎学力の定着を図っていききたい。教員についてもＩＣＴの活用の習熟および教材研究を重ね、全体の指導力を向上させる必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p> <p>（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を平成29年度より3ポイント減少させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策3 地域ごとに開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>昼休みや放課後の時間に図書館を開放し、本の貸し出しをしたり、自主学習会や講習会を行い、利用しやすい雰囲気をつくっていく。</p> <p>（学校図書館の活性化）</p> <p>指標 図書館の利用者数を昨年度よりも増加させる。</p>	A

<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>総合の時間などを活用し、教科学習の補助的な運営を行い、学習時間の確保に努めていく。</p> <p>(教育活動のための時間の確保)</p>	B
<p>指標 授業の時間数を確保し、生徒の学習時間を増加させる。</p>	
<p>取組内容③【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>タブレット端末などのICT機器を活用して、学びの楽しさを伝えていく。</p> <p>(ICTを活用した教育の推進)</p>	B
<p>指標 ICT機器を活用した授業時数を昨年度より増加させる。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>4月から8月までの利用人数が、昨年度3423人から今年度は3746人と9.4%増加した。また、4月から8月までの貸出冊数は、昨年度744冊から今年度958冊と約28.8%も増加した。特に、夏季休業中の利用が多く、昨年度205人から今年度554人と約2.7倍も増加した。</p>
<p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある学年の校外学習などの際に、特別時間割などを組み、他学年の授業の補欠を無くし、授業を確保した。 ・また、テスト間のクラスごとの授業時数のバラつきを減らすために調整をおこなった。 ・行事などの取り組みがあり、総合などの時間を使い、教科の授業時数を確保することは十分にはできていない。体育大会・文化発表会などの大きな行事が終了した後は行っていく。
<p>取組内容③</p> <p>1学期のタブレット端末の使用回数は55回だった。昨年度と比べると大幅に増えた。2学期・3学期とこのまま使用頻度を増やしていきたい。ただ、タブレット端末の良さを活かし、学びの楽しさを伝えつつ、ストレスなく使用していくためには、タブレット端末の利便性の向上は欠かせない課題である。</p>

（３）生活指導部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

現在、問題行動を起こす生徒はほとんどおらず、全体としては落ち着いているが、対人関係がうまく図れず、学校に来づらかったり、登校はしているものの、教室に入れない生徒もいるので、生徒が安心して学校生活を送れるように、今まで通りルールを守ることの大切さなどを指導しながら、学校全体でその方策を講じる必要がある。

多くの生徒が遅刻なく登校できているが、ギリギリの時間での登校や、予冷遅刻をする生徒がいる現状であるため、全員が時間に余裕をもって登校し、落ち着いて始業に取り組めるようにすることが課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 30 年度～33 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ③ 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- ④ 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>② 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>③ 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>② 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 被害調査の全ての項目において、「いいえ」の回答率を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 問題行動の発生件数を前年度より減少させる。 (いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 被害調査を毎学期実施し、全ての項目の「いいえ」の回答率を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 安全に登校し、落ち着いて学校生活のスタートを切れるように、予鈴遅刻を減少させる。 (登下校時の子どもの安全確保)</p> <p>指標 前年度の遅刻の割合より5ポイント減少させる。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 2学期始業時に、いじめ・被害調査を実施した。全ての項目の「いいえ」の回答率は90%以上となっており、早期対応している。</p> <p>取組内容② 遅刻減少のために、予鈴遅刻カードと本鈴遅刻カードを色分けして作成して、生徒に周知している。また全校集会や普段の登校指導においても、予鈴までに時間に余裕をもって登校するように声かけをしている。</p>

（４）健康教育部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

現在、本校の生徒は概ね健康で安全な学校生活を送っている。しかし、生徒を取り巻く社会環境が大きく変化する中、健康・安全な生活に課題を持つ生徒も少なくない。

- ① 校内の学習環境の整備・美化・ごみの減量化の徹底を図る。さらに、健康・安全に留意して社会生活を送ることに自ら取り組むことができる生徒の育成を目指して、計画的に指導する。
- ② 生涯を通じて心身ともに健康的な生活を送ることができる生徒像を目指し、現代的課題に応じた指導計画が必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)
- ② 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。
(施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 美化・環境整備に関心を持ち、積極的に取り組む行動力を育成する。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 自己の健康課題を理解し、その解決に向けて行動する力を育成する。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>委員会活動の活性化を図り、校内美化・ごみの減量化・緑化推進に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">（インクルーシブ教育システムの充実と推進）</p> <p>指標 美化委員会当番の活動達成率を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>保健指導や委員会活動を通して、健康についての基本的知識の習得を促進し、自分自身の健康に関心を持たせる。</p> <p style="text-align: center;">（健康に関する現代的課題への対応）</p> <p>指標 健康診断の受診率を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>ピアサポートやアサーショントレーニングなど自己肯定感の向上につながる手法を用い、スクールカウンセラーとも連携しながら取り組みを実施する。</p> <p style="text-align: center;">（健康に関する現代的課題への対応）</p> <p>指標 年に1回以上、自己肯定感の向上をテーマとした取り組みを実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>美化委員会の当番活動も、ほぼ生徒のみで活動できるようになってきた。油引き、緑化活動（花の植え替え・アサガオの植え付け・プランター清掃）もよく協力しあって活動している。</p> <p>取組内容②</p> <p>春の生徒健康診断の結果一覧を、1 学期末懇談時に配布し、保護者へ直接結果の確認をしてもらい受診の必要性などを周知した。2 学期には、歯科について集団指導および個別指導を計画し、受診率の向上を目指す。</p> <p>取組内容③</p> <p>日々、保健室に来室する生徒に対し、スクールカウンセラーと連携しながら自己肯定感の向上につながるような言葉かけや支援を実施している。今後は、全校に向けた取り組みを検討し実施していく予定である。</p>

（５）事務・管理作業員部

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体の生徒の様子として、比較的落ち着いた状態の中で教育活動が実施されている。しかし、突発的な窓ガラス破損や小破損はゼロではないため、常に校内の危険箇所を把握し、補修対応を行うことが必要である。

また、教育環境を充実させるための教材購入にあたって、限られた予算を有効に執行するために、各教科との連携のもと、教材を検討する必要がある。

保護者から問い合わせが多い内容として、学校徴収金の徴収計画、学校給食費の徴収日程、就学援助申請書類についての質問がある。これらはプリントにて全体に配付しているが、プリントの紛失や失念により周知ができていない場合がある。そのため、文書の配布時期や、各種書類の締切り日などを随時発信し、周知を促していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 （施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。 （施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯教育の支援】</p> <p>学校徴収金や学校給食費、就学援助申請についての文書を、保護者メールと学校HPを利用し、随時保護者に情報発信を行う。</p> <p>(保護者や地域住民に開かれた学校園の運営)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校徴収金の予算書配付、学校給食費の口座振替日、就学援助申込期限についての周知を、保護者メールの配信と学校HPへの掲載を行う。</p>	A
<p>取組内容②【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>施設の更新・維持管理のために破損箇所等を把握し、生徒が安心して学習に取り組める教育環境の確保に向けて、施設の補修・維持管理を行うよう対応する。</p> <p>(学校施設の老朽化への対応)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>夏季休業中と年度末頃に、学校施設の破損点検を行い、補修必要箇所を調査し、優先順位をつけ補修工事を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>就学援助の各申請区分の締切日ごとに、保護者メールと学校HPにより、提出を促す案内文を配信した。学校徴収金や学校給食費の口座振替日についての情報公開を行った。</p> <p>就学援助の申請は、HP等で事前に締切日を周知していたこともあり、提出遅れや提出忘れはなかった。学校徴収金や学校給食費は、振替不能になる件数は一定あるものの、口座振替日等に関する問い合わせはなくなった。引き続き、保護者に情報発信を行うようにする。</p> <p>取組内容②</p> <p>学校施設の補修に関しては、施設等整備委員会を開催し、補修が必要な箇所や優先順位の審議を行った。地震や大雨、台風の影響で、発的な補修が必要な箇所が多発している状況であったが、校舎の点検を随時行い、優先順位の見直しも行った。しかし、予算不足によりやむを得ず補修を見送った箇所もあり、今後の対応を検討する必要がある。</p>

（6） 1 学年

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

落ち着いて学習にのぞむ生徒が多く、遅刻する生徒も少ない状態で学期を始めることができた。現時点では給食の残食率も少なく、委員や係などにも積極的に活動することができる。学習面での課題を持つ生徒は多く、細やかな配慮を要する。基礎的な学力の定着を図り、家庭での学習習慣をつけさせたい。

生徒が互いの違いを認め合い、よりよい人間関係を築くことができるような学年集団に育てていくことが課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ② 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成 33 年度調査において 7%以下にする。

（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>② 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p> <p>（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」のポイントを3ポイント向上させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>② 中学校チャレンジテストにおける校内平均が、大阪市の平均を超えるよう、学力の向上に取り組む。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 読書習慣をつける (学校図書館の活性化)</p> <p>指標 週3回の朝学習の時間を読書タイムとする。</p>	A
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実】 学年の生徒集団が互いに認め合い、いじめのない人間関係づくりを進めることができる取り組みを進める。 (いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 いじめに関する集中実践を年度1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 班を基本にした日直、学習、生活の取り組みを進め、リーダーの育成を進めるとともに、お互いに学びあう取り組みを進める。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進)</p> <p>指標 席替え、学級会議、授業等で班の活動を基本として取り組む。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 学年当初から週3回の朝の読書タイムを導入し、定着してきた。読書が好き、読書の楽しむというところまで継続をしていく必要がある。時間が少し短くなっている傾向があるので、8時25分から15分間の時間を確保したい。</p> <p>取組内容② 大きないじめの事案はなかったものの、対人関係を結びにくい生徒や、自分の考えを伝える力が未熟な生徒がいる。集中実践のみではなく、日常の取り組みの中での変化を見逃さずに対応していく。</p> <p>取組内容③ 日直、給食当番、清掃、座席決定において班活動を基本にした活動が定着してきた。後期に控える地域探訪を班活動のかなめと位置づけ、計画、予定から自分たちで進めていくように取り組んでいる。</p>

（7） 2 学年

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

2 年生のほとんどの生徒は、早い目に登校し、落ち着いて授業に向かう姿勢がみられる。しかし、各クラス予鈴に間に合わない生徒や学校を欠席しがちな生徒もいる。又、登校するものの、全ての授業には出席しにくく別室で過ごす生徒もいる。支援学級・保健室とも連携し、個々に対応しているところである。

学習面については、忘れ物・課題未提出・書字を苦手とする生徒が、学年で 15% 程度いる。各教科で課題の出し方を工夫し、個々の生徒へのきめ細かい対応をし、学力向上を計る取組をしていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている…学校はホームページを活用し、行事や部活動などの様子を発信している」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える生徒に割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている…学校はホームページを活用し、行事や部活動などの様子を発信している」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p> <p>（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化点を、前年度より向上させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける校内平均が、大阪市の平均を超えるように、学力の向上に取り組む。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 朝学習・GKPテストを実施し、学力の向上を図る。 (学力UP ベース事業)</p> <p>指標 朝学習の内容を工夫し、GKP テストの回数を昨年度より増やし、基礎学力の向上を図る取組を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実】 学年の生徒集団が互いに自己を認め合い、いじめのない人間環境づくりを進めることができる取組を進める。 (いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <p>指標 認知したいじめに関して100%解消に向かうよう対応する。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習は朝読書にしている。各自本を用意し、8時25分から35分の10分間を静かに読書に取り組んでいる。 ・GKPテストは1学期に3回行い、基礎学力向上がみられた生徒も若干名いた。 ・また、忘れ物や提出物の未提出については、各担任、各教科で繰り返し指導は続けているが、なかなか改善がみられない。引き続き指導を繰り返すこととする。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとのアンケート・日常の生徒たちの様子より、今のところいじめの認知はない。引き続きいやがらせ、仲間外れ、もめごとなどの出来事に気を配り、学年で指導を行う。 ・学年では、不登校の生徒、別室対応の必要な生徒がいるが、担任を中心に、保護者・養護教諭・スクールカウンセラーとも連携を図り、学年で継続指導を行っている。

（８）３学年

１．学校運営の中期目標

現状と課題

生活指導面での問題行動等は全くと言っていいほどなく、落ち着いた状態で学校生活を送ることが出来ている。

一番の課題としては、学習面があげられる。特に、女子に比べ男子の学力が低く、宿題等の提出状況や家庭学習の啓発が一年時から継続的な課題である。

また、不登校生の在籍比率が、２年時 7.84%（全国 3.01%・大阪府 3.42%・大阪市 4.93%）と高く、その対策と対応についてもさらなる検討を重ねる必要がある。さらには、対象生徒本人と保護者、そして、各専門機関との連携を密にし、卒業後の進路まで責任を持って補償できるよう取り組んでいきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の生徒の割合を、平成 29 年度からの 4 年間で全国平均以上にする。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ② 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- ③ 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>② 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団と比較し、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>② 平成30年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率8割以上の生徒の割合を全国平均にする。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策名 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>学年の生徒集団が互いを認め合い、いじめのない人間関係づくりを進めることができる取り組みを進める。</p> <p style="text-align: right;">(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)</p> <hr/> <p>指標 いじめ等に関する学年全体としての調査を、学期に1回以上行う。</p> <p>認知したいじめに関して、100%解消に向かうように対応する。</p>	B
<p>取組内容②【施策名 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>不登校、及び、不登校気味の生徒に対する支援や対策を強化する。</p> <p style="text-align: right;">(不登校生徒の対応)</p> <hr/> <p>指標 前年度よりも不登校比率を減少させるとともに、全員の進路を保障する。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>夏休み明けに被害調査を行ったが、特に被害の報告はなかった。</p> <p>日常的に生徒の様子を観察し、特に注意を要する生徒については折に触れて声をかけるように心がけた。</p> <p>今後とも、いじめ及び問題行動の予防、早期解決に向けて取り組む。</p> <p>取組内容②</p> <p>前年度不登校であった生徒の中から、毎日登校できるようになった生徒もいる反面、新たに不登校になった生徒もあり、比率については横ばいである。</p> <p>不登校生には家庭訪問等を通して進路の相談をしており、それぞれの目標に向けた努力が始まっている。</p> <p>今後も不登校の解消に向けた取り組みと、進路保障に向けて取り組む。</p>

（９）国語科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

基礎学力の向上を目指して、きめ細かい授業展開や習熟度別授業を実施する中で、校内における学習態度や学習意欲は向上している。国語の更なる学力向上を目指すためには、家庭学習や読書の習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。しかし、家庭学習の時間が乏しく、読書の習慣が身についていない生徒の割合が多く、国語の学力向上を目指す上での課題となっている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。

（施策 2 道徳心・社会性の育成）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85 パーセント以上にする。</p> <p>（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>（施策 2 道徳心・社会性の育成）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。</p> <p>（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策3 道徳・社会性の育成】</p> <p>本の読後感想を紹介し合う時間を作る。</p> <p>(学校図書館の活性化)</p>	B
<p>指標 読後感想を紹介しあう時間を作る。</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>単元毎の復習課題を与え、家庭学習をさせる。</p> <p>(放課後を活用した学習機会の支援)</p>	B
<p>指標 課題提出の割合を80パーセント以上とする。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>読書活動の啓発のため、1年生で読書カードの取り組みを行った。3年生は授業で読んだ作品の感想を発表し合った。2年生は授業で学習した短歌の鑑賞文を発表し合った。2学期以降も各学年で読後感想を紹介し合う学習を実施予定である。</p> <p>全国学力状況調査の結果、「まったく読書をしない」生徒の割合は前年度59.6PからH30年度は40.9Pに減少している。多少改善されたとはいえ、まだまだ読書の習慣はついていないので、これからも働きかけていきたい。</p> <p>取組内容②</p> <p>予習・復習課題を与え、各学年とも家庭学習の習慣の定着をめざしている。</p> <p>全国学力状況調査の結果は「家庭学習の時間が1時間未満」生徒の割合が前年度37.2PからH30年度34.5Pに減少している。</p>

（10）社会科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

どの学年も落ち着いた状況で授業ができています。家庭学習の習慣があり、小学校での学習内容が身につけている生徒は、授業でも強い興味・関心をもち、積極的に取り組むことができます。そのため、テストの得点にもつながっている。一方、授業でも学習意欲を維持することが困難であったり、家庭での課題など提出物もなかなか出せない生徒も一定数いる。

そういった状況の中で学力の2極化が進んでいる。まずは、基礎・基本の知識を定着させること、また、その先に、資料を読み取り活用する能力であったり、社会的な思考力や判断力、またそれを表現するちからを身に付けさせていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。

（施策 2 道徳心・社会性の育成）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>（施策2 道徳心・社会性の育成）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団と比較し、前年度より向上させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標		進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 小テストを継続して実施し、基礎事項の定着をはかる。 (全市共通テストの導入)		A
指標 平成30年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる		
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 定着した知識を活用し、自らの意見を「書く」「発表する」力を養い、 また、相手の意見を聞く態度を養う。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進)		C
指標 グループワークやレポートなど自分の意見を発信する機会をもつ。		
取組内容③【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器を活用して、学びの楽しさを伝えていく。 (ICTを活用した教育の推進)		B
指標 ICT機器を使用した授業を、継続的に行う。		

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者ごとにやり方に違いはあるが、小テストを行ったり、単元ごとやテスト前に復習問題を解かせるなどして基礎的内容の定着を図っている。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生を中心に各種テストなどが増えたり、基礎的内容の習得に時間がかかるため、なかなかグループワークはできていない。ただ、感想を書いて考えをまとめる機会を設けたり、長期休暇を中心にレポートなどの課題は設定できた。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントなどで地図やグラフ、写真などの資料を提示することにより、興味・関心を高めたり、学習内容に関しての具体的なイメージを持たせることについては、一定の効果があつた。 ただ、厳密に行っていく場合、教科の特性上、著作権などの問題が常にある。

（1 1）数学科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は・1 学期は 3 年生、2 学期は 1 年生、3 学期は 2 年生で習熟度別授業や T. T. での授業を行い、授業の定着を図っている。本年度も、学年、学級の状態に応じて、習熟度別授業や T. T. 授業を実施していく。

定期的に問題集から宿題を出し、家庭での自主学習を促している。毎回宿題をきっちり行っている生徒は自主学習の習慣がついてきたと思うが、1～2 割ほど、できていない生徒がいるので、声掛けを行い、宿題をする習慣をつけさせていく。

数学検定を年 2 回実施し、過去問を提示したり、図書館で学習会を開いたりした。しかし、全員合格とまではいかなかった。数学検定の参加人数が 6～8 名と少ないので、告知をして参加者を増やしていきたい。そして、合格できるように導いていく。

また、適正を見極めながら、I C T 機器も活用した授業を展開していく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団と比較し、前年度より向上させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における数学の活用に関する問題の無解答率を平成前年度より2ポイント減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 習熟度別授業を行い、少人数のなかで活発な発言を促す授業を行う。 （「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進）</p> <hr/> <p>指標 アクティブ・ラーニングでの授業に取り組む。</p>	C
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 タブレット端末を使い、自分の意見を発表する場を増やしていく。 （ICTを活用した教育の推進）</p> <hr/> <p>指標 適材適所を見極めながら、タブレット端末を使った授業を行う。</p>	C

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 少人数の授業は行えていないが、T.T での授業を行い質問をしやすい環境を整えている。また、グループワークを実施し、活発に意見交換を行った。</p> <p>取組内容② 手さぐりの中、タブレット端末を使った授業を展開している。今後、発表する場を作るなどし、意見発表する場を設けていきたい。</p>

（１２）理科

１．学校運営の中期目標

現状と課題

実験、観察については、興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいる。昨年度は、授業時間の１０％以上を理科室での生徒実験の時間にあてはめた。

実験の技能や計算力、科学的思考力、知識理解の定着率は、生徒間の差が大きい。昨年度もガスバーナーの実技検査や、圧力の計算で、事前に掛け算や割り算の計算問題を練習させたりしたが、期間を置くと定着率はかなり悪くなった。

一方、昨年度は、学年所属の理科教員がいない３年については、１年所属教員が理科の第一分野を、２年所属教員が第二分野を受け持っていた。そのため、１週当たりの時間数が０～２時間で授業の間隔が、空いてしまうことが多くあった。

本校の生徒の自然体験は少ない。生徒に、防災的な観点も含めた地域の理解を深め、本物の自然に触れさせるため、ICTによるバーチャルな体験だけでなく、実物教材を可能な限り取り入れていきたい。また、生徒の自主的・総合的な理解を深める夏休みの理科の自由研究の取り組みも継続していきたい。昨年度実施できなかった科学検定も本年度は実施していきたい。

知識理解の定着をはかるため、小テストや課題を定期的の実施していきたい。

また、普通教室や理科室において、デジタル教科書や書画カメラ、タブレット等のICTを活用し、生徒が主体的に学習したり、生徒間の意見交流（アクティブラーニング）ができるような授業の取り組みを実践していきたい。

理科室の使用率（平成２９年度は約１０％（１２１回使用））をさらに高め、生徒実験の回数をできるだけ確保していきたい。

そして、興味関心を高める工夫をはかりながら、基礎的事項の定着率を高めた

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80％以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらい

の時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。</p> <p>(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 70%以上にする。</p> <p>(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、前年度より向上させる。</p> <p>(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。</p> <p>(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標		進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 小テストを継続して実施し、基礎事項の定着をはかる。 (全市共通テストの導入)		B
指標 平成30年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる		
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 定着した知識を活用し、自らの意見を「書く」「発表する」力を養い、 また、相手の意見を聞く態度を養う。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進)		B
指標 グループワークやレポートなど自分の意見を発信する機会をもつ。		
取組内容③【施策6、国際社会において生き抜く力の育成】 ICT機器を活用して、学びの楽しさを伝えていく。 (ICTを活用した教育の推進)		B
指標 ICT機器を使用した授業を、継続的に行う。		

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 小テストを実施し、基礎事項の定着をはかっている。</p> <p>取組内容② 実験・観察時に、班ごとの発表や意見を聞く機会を設けている。</p> <p>取組内容③ 理科室での実験・観察時や教室でのグラフや表の説明等に、ICT機器を使用している。</p>

（１３）英語科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

英語技能検定を年間３回実施し、校区内の小学生に呼びかけて、同時に受検する取り組みを行ってきた。今後の課題としては、意欲的で活動的な生徒が多いが、一方で、基礎・基本の定着に欠ける生徒の割合も多い。ＴＴによる分割授業の実施を増やし、学力の向上を図っていくことが、喫緊の課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段１日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえ ば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 （施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行 っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。 （施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団 と比較し、前年度より向上させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれ くらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒 の割合を、前年度より減少させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 単元に適した習熟度学習の形を考え、内容を精選し、実施する。 (学校力UP ベース事業 (習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実))	B
指標 新しい単元の導入や、定期テスト前などに集中して習熟度別学習に取り組む。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (全市共通テストの導入)	
指標 家庭学習の課題の精選や、小テストや単元ごとの確認テストなどの実施をする。	
取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 英検受験人数を昨年度より増やす。 (英語教育の強化)	A
指標 「学校元気アップ本部事業」と連携し、放課後などの補充学習の機会を継続して設け、受検への意識を高めさせる。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 1学期、3年生で、テスト直前対策で実施した。2学期は、1・2年生で、2年生を集中的に取り組む計画をしている。</p> <p>取組内容② 1・2年生はまだ未受検。3年生については結果まちである。</p> <p>取組内容③ 秋に受検する人数が35名で、後期もまた増えるように意識を高め、補充学習にも一層力を入れていく。</p>

（14）音楽科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

各学年とも合唱による表現が定着し、音楽を愛好する生徒が多い。実技テストや行事も利用して、表現する機会を作り、継続して表現する喜びを身につけさせたい。また、鑑賞の領域においても、知識を得ることのみに偏ることなく、感じる心を育成していきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 33 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 校内調査における「学校のきまり、規則をまもっていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかと言えばあてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について「あてはまる（どちらか言えばあてはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>（施策2 道徳心・社会性の育成）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心、社会性の育成】</p> <p>音楽を表現することで自己の役割を責任をもって果たすこと、他者と協力して作品をつくりあげて学ぶ。話し合いを通して、自分の考えを伝えたり、他者の考えを取り入れて作品を作り上げる。</p> <p style="text-align: right;">（音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出）</p>	B
<p>指標 実技テストを年回5回実施し、生徒が表現する機会をつくる。また、他の生徒の表現を分析し、自分の考えを伝えられるように導く。</p> <p>学級合唱、学年合唱の取り組みを行う。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>パートリーダーによる各グループ練習を進めることで、自己の役割を責任をもって果たすこと、他者と協力して作品をつくりあげて学ぶ機会を増やすことができた。話し合いを通して、どのように表現するとよいか、またその自分の考えを発表し、他者の考えを取り入れて作品を作り上げる取り組みを進めている。</p> <p>実技テストは予定通り実施しており、合唱コンクールや学年合唱による発表の機会にむけて、学級の集団作り、学級の歌声作りを進めている。</p>

（15）美術科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

意欲的に創造活動に取り組むことができている。授業から生まれた作品を飾ることや、学校行事に関連して制作を進めることなど、美術活動に興味関心を持たせながら、表現力を高めてきた。形、色彩、構図による効果を自分の意図に応じて表現を工夫することが今後の課題であり、また、作品鑑賞を通し、個々の価値基準の生成も図りたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の児童（生徒）アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。</p> <p>（施策2 道徳心・社会性の育成）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の生徒アンケートにおける「学校で学習したことから、いろいろ調べてみたくなる」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>② 平成30年度3学期における授業アンケートで「先生は個の状況に応じた支援をしてくれる」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標		進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 対話型鑑賞や作品の比較鑑賞を班活動で行う。 （「主体的、対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進）		A
指標 グループで作品の相互鑑賞や比較鑑賞を行い、感じたことや考えたことを説明しあうなどの対話の機会を増やす。		
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 社会で活躍するデザインの鑑賞や環境保全のポスター制作をさせる。 （環境を守る意識の醸成）		C
指標 中学校美術科指導要領、A 表現（2）に準拠し、「伝える、使う」などの目的や機能を考える活動から、環境保全について視点をもたせる。		
取組内容③【地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 資料収集に図書館を利用させる。また、銅版によるしおりづくりをする。 （学校図書館の活性化）		B
指標 読書感想画の募集をし、読書への興味、意欲を高める。 各実習課題における主題実現のため、資料収集に図書館を利用させる。		

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>進捗は良好である。作品制作の導入の鑑賞にあたる授業や、作り終えた作品の相互鑑賞を行うことが出来ている。「主体的、対話的で深い学び」について、ますますの充実を図っていききたい。</p> <p>取組内容②</p> <p>年間授業計画の中で実施が先の予定である為、未履修の授業の単元があり、取組状況としては良好といえる進捗ではないが、前年度よりも充実した授業内容となるよう、教材研究にあたりたい。</p> <p>取組内容③</p> <p>実施予定が3学期のため「銅版によるしおりづくり」については、達成していない。図書館利用に関しては、各課題に応じて資料収集をさせている。毎回の題材が図書館の資料を役立てることが出来るような内容とは言えないので、題材設定の工夫をしていきたい。</p>

（１６）保健体育科

１．学校運営の中期目標

現状と課題

例年、全国体力・運動能力調査の結果が全国平均を下回っている。特に、男子の体力・運動能力の低下傾向が強くみられる。また、運動習慣の必要性や生涯スポーツについての理解も低い。心もからだも急激に成長する大切な時期に、基礎的な知識と技能を学ばせ、実社会や生活で役立たせることができるようにしたい。

また、規律を求める指導と、運動やスポーツの意義や楽しさを味わわせる指導の両立、そして、ＩＣＴ機器の活用も課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。</p> <p>（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を 100%にする。</p> <p>（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である上体起こしの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。</p> <p>（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における合計得点を、前年度より 3 ポイント向上させる。</p> <p>（施策 7 健康や体力における保持増進する力の育成）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策名 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>体育における集団行動や班別行動等を通して、規律を守ることの意味や仲間と協力することの大切さを学ばせる。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする</p>	B
<p>取組内容②【施策番号⑤、子ども一人ひとりの状況に応じた取り組み】</p> <p>それぞれの課題に応じて、仲間と協力し合ってその解決に向かえる取り組みを増やし、自ら工夫して目標の達成が味わえるようにする。</p> <p style="text-align: right;">(子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	B

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>2 学期の始業式も、服装・頭髪についての指導もなく、落ち着いた雰囲気の中で規律正しく行うことが出来た。体育大会も、体育委員や係生徒中心にスムーズに行うことが出来た。</p> <p>取組内容②</p> <p>1 年生は、ラジオ体操第 2 習得の際、班や部活ごとに教え合い、全員合格に向けての取り組みが出来た。</p> <p>2 年生は、水泳の補習や体育大会の朝練に多くの生徒が参加し、自らの課題に積極的に取り組んだ。</p> <p>3 年生は、体育大会集団演技に向け、実行委員を募り夏休みにも活動を行った。多くの生徒が、部活や受験勉強の合間を縫って練習に参加し、本番も立派にやり遂げることが出来た。</p> <p>今後は、ICT 機器を活用し、さらに生徒の活動の手助けとなるように工夫した授業を行えるようにしたい。</p>

（17）技術・家庭科

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

パソコン・作品制作・調理実習などの作業学習には関心が高く、意欲的に取り組む生徒が多い。基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成33年度調査において7%以下にする。

（施策7 健康や体力における保持増進する力の育成）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学力のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。</p> <p>（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 少人数での授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。 (教育活動のための時間の確保)	B
指標 個に応じた指導の充実を図り、教科に対する理解度の向上を図る。	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
取組内容① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1年生では学級を分割した少人数クラスでの授業を行なうことで、きめ細かい指導が可能となり、より興味・関心を高める授業の展開をすることができている。 また、ICT 機器の活用も図り基礎的・基本的な学習に取り組んでいる。

（１８）特別支援教育委員会

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

成功体験が少なく、学習に対して意欲や自信のない生徒が多い。また不安が大きく、教室になかなか入りづらい生徒もいる現状である。なので、個のニーズに応じた多様な教育活動を展開し、進路を見据えた基礎学力をつけていくとともに、生徒に自信をつけさせることや、それぞれのクラスで安心して学校生活が送れるように、特別支援学級を中心に、学校全体で方策を考える必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ② 平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1 時間未満」と答える生徒の割合を、平成 28 年度より減少させる。

（施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を70%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成30年度の全国学力・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「1時間未満」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上取組)</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標		進捗 状況
取組内容①【施策番号2、道徳心社会性の向上】 インクルーシブ教育の充実と推進を図る。 (インクルーシブ教育の充実と推進)		B
指標 日々の生活の中で、「基本的なあいさつ、時間を守る、整理整頓」 などの、社会生活で必要とされるスキルを習得させる。		
取組内容②【施策番号5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 個々のニーズに合った教育の推進を図る。 (教育活動のための時間の確保)		B
指標 達成したことが自分でもわかるように、スモールステップで目標を 提示し、自己の課題を自覚し、目標を持って学習する姿勢を育てる。		

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>ほとんどの生徒は基本的なあいさつ、時間を守る、整理整頓、持ち物の管理などに課題を持っている。行動目標を具体的に示し、できていない時には声かけをして、自覚を促すように努めていきたい。</p> <p>また通常学級での生活に不安を感じている生徒については、通常学級担任と協力して、学級でインクルーシブ教育について話す機会を設け、改善されたケースもあった。今後お互いに連携をとりつつ、生徒に対してはカウンセリングマインドを持って接し、さらに心の部分も含めて安心できる環境づくりをしていきたい。</p> <p>取組内容②</p> <p>それぞれの理解度に合わせて指導を進めている。その結果、定期テストで自分の目標点数を設定し、目標達成に向けて努力している生徒もいるなど、学習に対して意欲的に取り組めることが多くなった。</p> <p>また夏季休業中の課題については、進捗状況をその都度提示し、自分で「どれだけでできたのか」「あとどれぐらいで終わりそうなのか」などを確認できるようにした。そうすることによって、達成感を味わい、また計画を持って取り組んでいた。今後も目標や課題を明確にして学習に取り組ませていきたい。</p>

（１９）人権・道徳委員会

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体としては、生徒は落ち着いた状態で学校生活を送っている。
平和学習については、8月の全校平和登校日前後の取り組みは充実している。
生徒は「いじめ・差別はいけない」「戦争を憎み、平和を愛する」という概念は概ね持っていると思われる。

2学期以降の各学年の人権学習の時間の確保と、内容の再検討が必要である。
特に、野宿生活を余儀なくされている人たちの問題・LGBTについてなど今日的人権課題についても研鑽を積まなくてはならない。

そのためにも、教職員自身が、地域研修などの人権研修会に積極的に参加し学習する必要があると思われる。

また、道徳については、学級担任に加えて、副担任も授業を行うというスタイルは定着してきた。

来年度からの教科化に伴い、評価の方法について具体的に示し方向性を見出す必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～32 年度の年度末の行内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ② 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）

- ③ 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 80%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>② 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を 100%にする。 （施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>② 平成 30 年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 70%以上にする。 （施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 （施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 （施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳の教科化に伴い、教員相互の授業研究に取組、評価の方法について具体的な方向性を示す。</p> <p style="text-align: right;">(道徳教育の推進)</p>	B
<p>指標 各学年全員の教師が道徳の授業を行う。1学期より評価をつけ、検討しながら来年度へ向けての準備をする。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>地域研修の人権研修に積極的に参加し、学習を行い、全校的な取組を進める。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標 全校での平和学習、各学年での人権学習の取組を深める。</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>各学年ローテーションでの授業を行い、教師全員での道徳授業を実施出来ている。評価についての方向性も示し、2学期に仮評価を付けるための授業展開を準備している。</p> <p>評価の付け方、それに合わせた授業展開の方法等は、まだまだ検討する必要がある。</p> <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年「オキナワ」をテーマとした平和学習に取り組んだ。平和登校日には生徒会、文化委員での朗読劇を行った。今後2年生は広島修学旅行、1年生は沖縄修学旅行へ向けて継続して平和学習に取り組む。 ・夏季地域研修には、2回で16名の職員の参加があった。人垣・外垣は他区の地域研修にも参加し、今年は中国語弁論大会へ5名の参加を予定している。 <p>3学期には多文化共生をテーマにした人権学習を予定している。</p>

（20）食育委員会（本年度より「給食委員会」から改名）

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

平成28年9月2日より、全市に先がけて本校では親子給食を開始した。運搬、配膳等も軌道にのり、生徒も給食の準備、片づけ等もスムーズに行えるようになってきた。食育については、給食だよりを発行したり、給食カレンダーの掲示、食育についての文化発表会展示など、生徒の興味・関心に役立てることができた。

課題としては、残食率の高い米飯の残食を減らす工夫が必要である。また、本年度4月から新設された生徒の給食委員会を中心にさらに食育に関心をもたせるような取り組みをすすめていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ① 平成32年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を80%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、平成33年度調査において7%以下にする。

（施策7 健康や体力における保持増進する力の育成）

2. 年度目標と年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の充実）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 今年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>（施策2 道徳心・社会性の育成）</p> <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 今年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より向上させる。</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を、前年度より減少させる。</p> <p>（施策7 健康や体力における保持増進する力の育成）</p>	

年度目標の達成状況や取り組み内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 給食の米飯の残食率の割合を30%以下にする。 (子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p> <p>指標 教職員で取り分けたり、声かけをしたりする。また、残食についての現状を給食だよりで知らせ、呼びかけたり、給食委員会などを中心に生徒にも積極的な活動を行わせていく。</p>	C
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持、増進する力の育成】 給食委員をリーダーとした食育の取り組みをする。 (食育の推進)</p> <p>指標 生徒たちに食育についてできることを考えさせ、発表の機会をつくることで意識の向上を図る。</p>	A
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持、増進する力の育成】 保護者対象の試食会を昨年度に引き続き開催する。 (中学校給食の充実に向けた総合的な取組)</p> <p>指標 日程調整し、準備をして開催する。(年1回)</p>	

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
<p>取組内容① 各クラスの取り組みや委員会の呼びかけで50→40→36%と米飯の残食率(学校平均)は減ってきている。30%にはまだもう一歩である。(牛乳については10%をきり、9%になった) 今後も、給食委員会を中心とした呼びかけやお知らせの工夫を行っていききたい。</p> <p>取組内容② 新設した給食委員会の活動も順調であり、片づけなども助かっています。文化発表会では、展示での参加予定をしており、後半も継続して給食委員会での取り組みを広げていきたい。</p> <p>取組内容③ 試食会を10月19日に計画之中である。文化発表会の展示物も利用する予定である。</p>